



京都市長
門川 大作

「住むひとにも、訪れるひとにも 魅力的な国際都市」を目指して

この「自治体国際化フォーラム2012年6月号」が発行される5月15日は、ちょうど京都で葵祭が催される日。雅やかな平安時代を偲ばせる古式ゆかしいこのお祭には、国内のみならず海外からもたくさんのお客様が観覧に来られます。

一方、京都には現在、4万人を超える多様な外国籍市民の方が暮らしておられます。新たに市内に定住される方もここ数年増えており、あらゆる国の人々との交流が深まることで、未来の京都を更に輝かせることにつながると私は確信しています。

千年以上の長きにわたり日本の中心であった京都は、歴史に育まれた伝統を大切に継承してきました。そこには、朝鮮半島や中国などのアジアの国々をはじめ、世界中から学問、芸術、技術等が集まり、多様な文化が共生してきました。

このような歴史を有する京都市は、昭和53年に「世界文化自由都市宣言」を行い、「全世界のひとびとが人種、宗教、社会体制の相違を越えて、平和のうちに、ここに自由に集い、自由な交流を行う都市」、また、それを通じて「優れた文化を創造し続ける永久に新しい文化都市」を都市の理想像として掲げました。

その実現のため、平成20年には、今後の国際化の新たな指針となる「京都市国際化推進プラン～多文化が息づくまちを目指して～」を策定。一昨年度策定した新しい京都市基本計画「はばたけ未来へ！京プラン」でも、国際化を重要な施策の一つとして位置付け、推進施策として「世界中のひとびとを引き寄せる京都の魅力の向上と発信」、「市民主体の国際交流・国際協力の推進」、「外国籍市民等がくらしやすく、活躍できる多文化が息づくまちづくりの推進」を掲げ、取組を進めています。

また、世界の歴史都市が直面している共通の課題解決に向け、平成6年に発足した「世界歴史都市連盟」の会長都市としても、本市は世界をリードする役割を果たしています。

昨年の東日本大震災に際しては、世界中の方々が我が国に温かい支援の手を差し伸べてくださいました。被災地の方々が、困難を乗り越える大きな支えとなった各国との絆は、日々の交流と相互理解があってこそのものであります。そうした交流や理解を深めていくうえでも、京都が果たす役割はますます大きいと実感しています。

引き続き私は、市民の皆様と共に汗する「共汗きょうかん」によって、住む人にとっても、訪れる人にとっても魅力的な国際都市・京都のまちづくりに全力を尽くしてまいります。